

○学校教育目標

「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を身に付け、次代を生き抜く子どもの育成
—郷土を愛する子どもを地域とともに育てる—

○目指す子ども像

「目標に向け自ら学び、よく考え、進んで実行する子」
「自然を愛し、郷土を愛し、人を愛する子」
「心豊かに、集団や社会の中でたくましく生きていく子」
「誰に対しても、思いやりをもって接することができる子」

▽目指す子どもを実現するための具体的な意識・行動について

- ①心を込めた「挨拶」がしっかりとできる～信頼関係の築き
- ②正しく丁寧な言葉遣いができる～相手を尊重し支え合い高め合う集団
- ③授業は集中して真剣に取り組むことができる～学習規律の徹底
- ④相手の意見を聴き、自分の意見が発表できる～言語活動の質の向上
- ⑤家庭学習がしっかりとできる～一人一人の学力向上
- ⑥自分や仲間のよさを認め合うことができる～集団の質の向上

○目指す教職員像

- ・変化の激しいこれからの社会の中で生きることもたちに必要な力「生きる力」を、専門職としての力量を高めながら育むことができる。
- ・子どもと「共に学び」「共に育つ」という姿勢を堅持する。
- ・特に、施設一体型小中一貫教育校及びべき地小規模校である本校において、自身の過去の経験にとらわれることなく、校種間の違いや経験年数の多少を越え、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく新しい知や価値を創造する能力を持って、「目指す子ども像」の具現化に向けて全力で取り組むことができる。

○目指す学校像

- ・「家庭」「地域」がそれぞれ役割と責任を果たし進めている教育を有機的に結び付け、その核となる。
- ・学んだことが生きて働く知恵となるようにするために、地域をはじめとする社会生活との多様なつながりを創造する。
- ・大学生や保護者、地域の方をはじめとするあらゆる大人たちが知恵と力を出し合い、子どもを共に育む、その核となる。
- ・特に、山間過疎地域にある本校において、地域の財産であり地域の将来の担い手である子どもの教育を通して、地域活性化の核となる。

○学校経営方針

- ・小中一貫教育をベースとして、教育課程を先進的かつ柔軟に編成する。そして、施設一体型及び少人数校の特性を活かしながら、「子どもたちに確かな学力を定着させ、豊かな人間性を育むための学校づくり」を推進する。
- ・小中教職員が一体となった組織体制を構築し、各教員の専門性をいかした指導体制を整備するとともに、先進的かつ確かな実践を通してこれからの中一貫教育をリードする人材を育成する。
- ・家庭や地域と連携を密にし、地域の未来を見据えた「地域ぐるみの学校づくり」を推進する。